

管楽合奏は楽しい会？

No.50 “50回定期を迎えました”

2018年5月27日(日)14時00分開演 深川江戸資料館小劇場

信澤達也編曲作品集

ドビュッシー (仏/1862~1918)

ラヴェル (仏/1875~1937)

フォーレ (仏/1845~1924)

ドヴォルザーク (捷/1841~1904)

--- Intermission ---

フェルトマイヤ (独/1756~1834)

E.ハルトマン (丁/1836~1898)

「小組曲」全4曲

(Fl)信澤/若林 (Ob & C.Ang)土屋・山本 (Cl)向山/兼氏 (Fg)森川/辻/山田 (Hn)市原/鈴木 (Kb)長田

「逝ける王女のためのパヴァーヌ」

(Fl)若林/信澤 (Ob)楠原(C.Ang)山本 (Cl)庄子/向山 (Fg)尾作/辻 (Hn)井上/鈴木 (Kb)長田

「パヴァーヌ」

(Fl)若林/信澤 (Ob)山本 (C.Ang)土屋 (Cl)兼氏/向山 (Fg)尾作/辻 (Hn)皆川/井上 (Kb)長田

「ソナチネ」全4楽章

(Fl)岡添 (Ob)山本/楠原 (Cl)景山/向山 (Fg)辻/山田 (Hn)皆川/井上

「パルティータ」全4楽章

(Fl)信澤/若林 (Ob)楠原/土屋 (Cl)景山/庄子 (Fg)山田/阿部 (Hn)市原/皆川/鈴木 (Kb)長田

「セレナード」全4楽章

(Fl)信澤 (Ob)楠原 (Cl)兼氏/庄子 (Fg)阿部/尾作 (Hn)鈴木/井上 (Kb)長田

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & Fg/解説)森川 一 (もりかわ はじめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表

(Fl & Cond)岡添 隆(おかぞえ たかし) ドビュッシーとラヴェルを指揮

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーの会社員の身分のまま東大に駐在し、社会連携講座で代表共同研究員として研究室を切り盛りしている。研究と音楽の二刀流は成り立つ、が信条。

(Fl)若林剛守(わかばやし たける) 初参加!

中学入学時に吹奏楽部のコンサートで聴いた「星条旗よ永遠なれ」のピッコロに憧れ、フルートを始める。ただ、同パートを吹いて目標を見失ったのか、高校時代は帰宅部に。大学入学と同時に東京大学音楽部管弦楽団に入団し、新井力夫氏に師事。進級するのを忘れるほどのめり込むものの、卒業後は某メーカーに就職し、十余年にわたり東北の某都市にて音楽演奏と無縁の日々を過ごす。もう一生吹かない気がしていたが、一昨年の東京転勤を機に、会社の大先輩である岡添氏に誘われて活動を再開。現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団(2009~2014は団長)で活動。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので運動不足が気になる気になる昨今である。現在、職場のビッグバンドでは何とバストロンボーン兼コンサートマスターとして活動中。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学~大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がガラガラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルグリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏委員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属。

(Ob)山本悦子(やまもと えつこ)

川崎市出身。中学でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団を経て、2001~2013年までエルムの鐘交響楽団にて活動。2008年からハルモニア合奏団で管楽アンサンブルを始め、2014年から「管楽合奏は楽しい会？」に参加。オーケストラは合奏団ZEROに所属している。勤務先の病院では広報・図書室・院内コンサートなどの担当をしている。趣味は海釣りやサイクリングである。

(Cl)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダングダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で

絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリステン代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl) 庄子穂奈美 (しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦の両氏に、室内楽を太田茂氏に師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Cl) 向山尚志 (むこうやま たかし)

12歳よりクラリネットを始める。東京大学入学と同時に音楽部管弦楽団に所属、この間にクラリネットを故・浜中浩一氏ほかに師事。1974～2003年まで東京アマデウス管弦楽団に所属。その後しばらく東京を離れていたが昨年4月に戻り、楽しい会?には14年ぶりで昨年12月の演奏会から復帰。

(Fg) 阿部 憲一 (あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会?出演後アメリカに赴任するが、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。最近新しい中古(?)の荒敵なヘッケルを手に入れ、更に演奏を楽しんでいる。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg) 尾作 拓郎 (おさく たくろう)

1984年生まれ、神奈川県出身。法政大学第二高等学校の吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。現在、狛江フィルハーモニー管弦楽団に所属。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg) 辻 昭雄 (つじ あきお)

法政二高、法政大学、同大学院と吹奏楽と交響楽団でファゴットを演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団及びフライハイト交響楽団に所属し、母校である法政二高で教鞭を採っている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg) 山田 祐理 (やまだ ゆうり)

10歳くらいまでヴァイオリン、中学でユーフォニアム。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。普段は大学教員(物理化学)として働いている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Hn) 市原 秀紀 (いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介、井上華の両氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスのメンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル”Strudel Hornisten”を主宰している。

(Hn) 井上 華子 (いのうえ はなこ)

小学校で金管バンドを始め中高は吹奏楽、千葉大学では管弦楽団に所属する傍ら、インセクツ・ウィンド・アンサンブル(音楽監督/菅原暁先生)で管楽合奏にも動しむ。普段は小学校教諭として吹奏楽部の指導をしながら、現在もオーケストラとアンサンブルの二足の草鞋で演奏を楽しんでいる。当会には2014年より参加。長く在籍しているインセクツと違い、年齢層も広くプロも参加している環境での緊張感を楽しんでいる。

(Hn) 鈴木 彩 (すずき あや)

埼玉県出身。12歳よりホルンを始める。桐朋学園大学、同大学研究科を修了し、現在は桐朋学園大嘱託演奏員を経て、洗足学園大学演奏要員を勤めている。。在学中に京都国際音楽学生フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ 2014、音楽大学合同フェスティバル2015などに選抜され、2016年小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVI喜歌劇「こうもり」に参加する。これまでにホルンを根岸伊智郎、猶井正幸、田場英子の各氏に、室内楽を佛坂咲千生、猶井正幸、岡本正之、亀井良信、鈴木良昭、幡崎耕三の各氏に師事。

(Hn) 皆川 理恵 (みながわ りえ)

9歳よりホルンを始める。東京音楽大学音楽学部ホルン科首席卒業。守山光三、富成裕一、湯川研一の各氏に師事する。現在はアンサンブル・アクアのメンバーであり、またフリー奏者としても活動中。

(Kb) 長田 元 (おさだ はじめ) 初参加!

三男の父。弦楽器に憧れ、身近な高校のブラバンでコントラバスを始め、週末には近辺の厚木や秦野の市民オケに参加して管弦楽の魅力を見。東大オケの4年間に続き、卒業後は東京アマデウス管弦楽団を本拠に多くのオケに出演し音楽との出会いを満喫中。10年赴任したNYでも、地元オケでの活動や室内楽を通じて多くの得難い経験をする。Staatskapelle Dresdenを音楽面の理想(そのCD/DVDをほぼ全て所有)としている。また、バロックや室内楽を熱望しVnも猛練習中。管楽器の響きもとても好きなので、来世はオーボエかホルンを吹いてみたい。

本日は管楽合奏は楽しい会?の演奏会にお出で下さり、有難うございます。今回で50回目の演奏会となりました。振り返れば、1991年にプロの仲間達と六重奏でこの会は始まりました。その後オーボエやフルートが入り、98年からはアマチュアの仲間達も加わり、現在の形となりました。人の出入りはありますが、一貫して管楽合奏の追究してきた事を誇りに感じています。よく続いたなあと思いますが、これで終わりではありません。どこまで出来るかは分かりませんが、私が引退しても若い仲間が続けてくれるものと信じています。

合奏する事は楽しいのですが、常に課題を突き付けられます。一度演奏すれば満足とはいかず、何度演奏しても新しい発見があります。その切りが無いところが、面白く楽しいのです。演奏者はマゾですね(笑)。でも、演奏を通じて面白さがお伝え出来れば、成功かも知れません。最後までお楽しみ戴ければ幸いに存じます。

第51回演奏会は下記の会場と日時です。是非次回もお運び下さい

2018年12月23日(日/祝)14時開演 北とぴあ・ドームホール